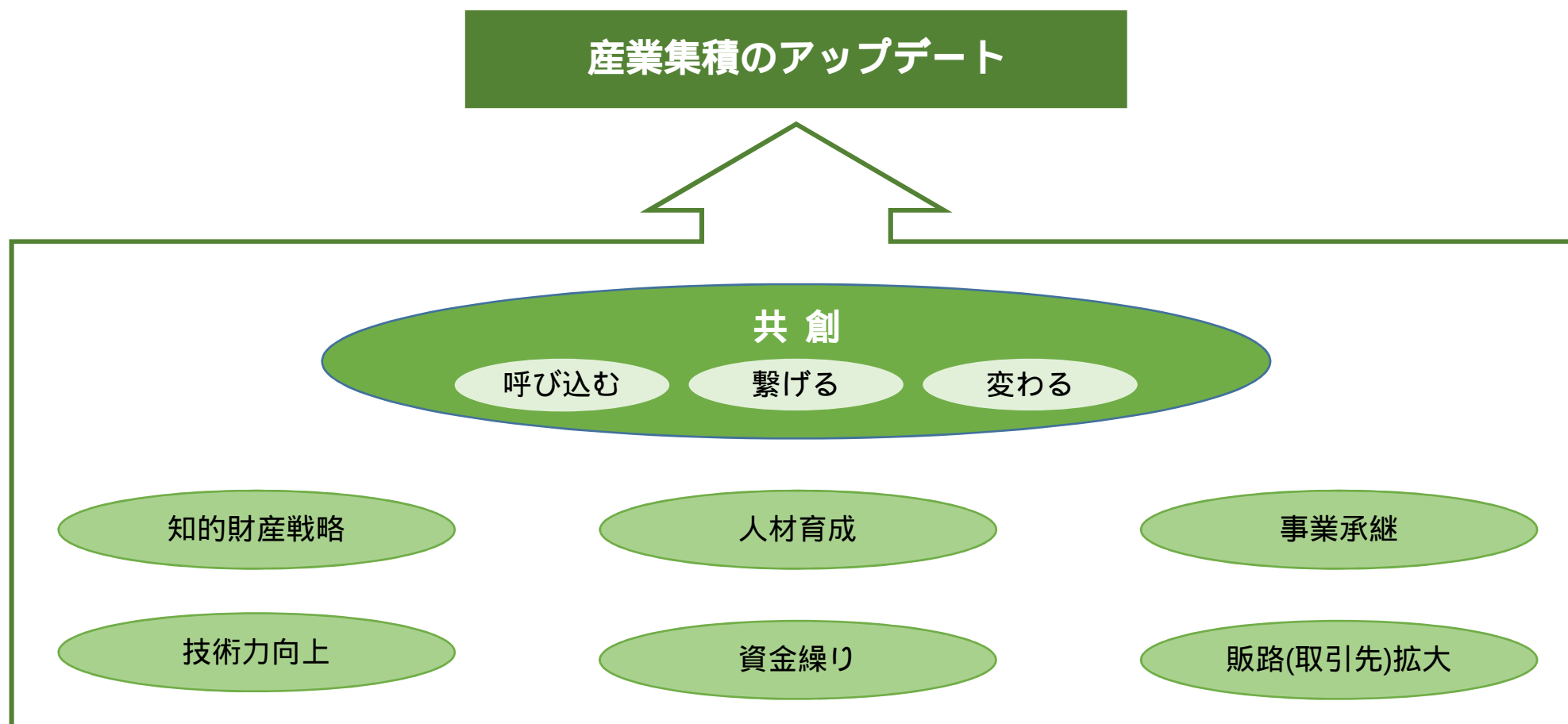


共創を通じて‘産業集積のアップデート’を実現するために 必要な取組について

【産業集積のアップデートに向け、共創創出に注力】

- 今後、墨田区では共創創出を軸とした施策を展開していく
- 産業集積のアップデートをするためには多方面からの施策が必要



【共創により墨田区が目指すもの】

産業集積のアップデートを通して、「暮らし続けたい・働き続けたい・訪れたいまち」の実現に寄与する

【産業集積のアップデートの姿】

スタートアップ等外部人材の流入を促し、歯抜け状態になってきている墨田区の産業集積に新しいピースを入れることで、区内事業者との共創による化学反応を起こし、新たな産業構造を生み出し、変化に対応できる産業集積を保持している

イメージ

- 関係人口が増加、外部人材の流入が継続し、地域に根付く
- 外部人材と区内事業者との共創により
 - 社会課題解決に寄与する新規事業・新会社を立ち上げる
 - 自社製品・サービス等の付加価値向上に取り組む
 - 自社の課題解決に取り組み、経営革新を目指す
 - 人材の相互活用が進む
- 上記のような動きが連続的に起こっている

産業集積のアップデート

- 不確実性・非連続性が高く将来が予測できない環境への対応（効果の経営）

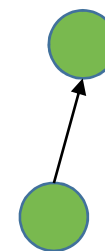
探索・試行錯誤による新たな価値創出

▶開かれたネットワークの構築

▶連続的オープンイノベーション

（新分野進出、新技術開発、技術・資本提携、業態転換・拡張、M&A etc）

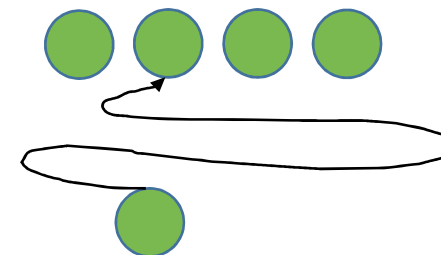
効率の経営



- ・不確実性低い
- ・ゴールが予測可能
- ・コアコンピタンスを重視した短期的収益

稼げる事業への集中と
選択による企業体質の
強化

効果の経営



- ・不確実性高い
- ・ゴールが予測不可能
- ・探索を重視したヒット率向上

複数の可能性を前提とした
意思決定手法の確立による
対応力強化

（令和6年4月3日日本経済新聞朝刊 長内厚氏のコラムを元に作成）

共創は「効果の経営」と親和性が高い

【共創の定義】

多様なステークホルダーと協力しながら新しい価値を創造すること

【共創の形】

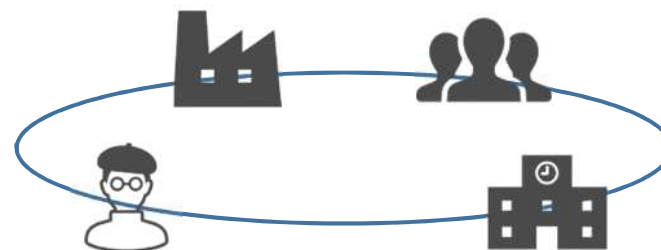
双方向型

双方が対等な関係で議論を行い、新たな価値を生み出す



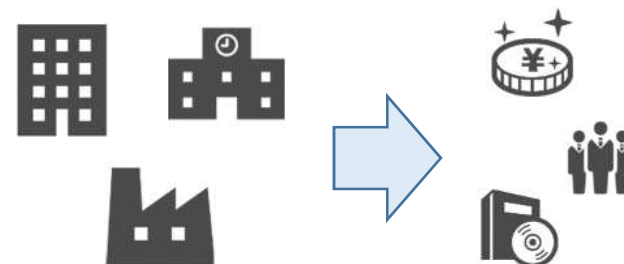
共有型

企業や自治体、研究機関などがコミュニティやコンソーシアムのようにオープンな関係を構築し、課題やテーマについて議論を重ね、アイデアを出し合う



提携型

プロジェクトを実行する上で足りないもの（アイデア・技術・人材・資金など）を他者との協力によって補い、解決する



共創を通じて「産業集積のアップデート」を実現するために必要な施策の在り方

呼び込む

区外から多様なステークホルダーを呼び込む

繋げる

ステークホルダーと区内事業者との共創事例を創出する

変わる

区内事業者の意識・体質が変わる

【R6第1回】

- 令和6年度産業振興会議の構成
- 共創を生むために必要な取組 1

【R6第2回】

- 共創を生むために必要な取組 2

【R6第3回】

- 外部講師を招いての勉強会

【R6第4回】

- 答申（区長報告）

- 共創を通じて「産業集積のアップデート」を実現するため、区としてどのような取組をすればいいかについてご議論いただきたい